

2004年度年会講演者一覧

会場	番号	講演者 / 所属	演題	内容
19日 (土) A 会場	1	鈴木貴之 東京大学・研究員	物理主義と心的因果の問題	キムの議論に反して、機能主義的な物理主義のもとでも心的因果の効力を理解できるということを論じる。
	2	原 塑 マインツ大学 大学院	合理的解釈の知覚理論	合理的解釈は解釈対象の振る舞いと心的状態を端的に知覚することによって行われるという主張を展開する。
	3	中村麻里子 慶應義塾大学 文学研究科 博士課程	表象説における経験の透明性	表象説を支える「経験の透明性」という観点について、高階説と比較しながら、その内実を批判的に検討する。
	4	福田 敦史 慶應義塾大学 非常勤講師	人格の同一性を問うということ	「人格が同一であることの基準は何か」という伝統的な問題設定そのものについての批判的考察を試みる。
	5	青山 拓央 千葉大学大学院 社会文化科学研究科 博士課程	客観的現在と心身相関の同時性	意識状態の生成が、それに対応する物理状態の生成に著しく遅れる可能性を排除することの困難について。
	6	山田圭一 東北大学 文学研究科 博士課程	認識的文脈主義の射程	認識的文脈主義は懐疑論を含む認識論の問題にどこまで答えているのか、を批判的に検討する。
	7	壁谷彰慶 千葉大学 社会文化科学研究科	悪霊と培養槽	超越的な事実に関する懐疑論をいくつか取り上げ、その構造を探り、自由意志の問題との関連を考察する。
	8	水本正晴・石川幹人 東京都立大学 学術振興会・明治大学	心の部屋プロジェクト2	心の部屋プロジェクトによる風景認知についての成果報告と「空書」と記憶に関わる現在のプロジェクトの説明。
	9	伊藤美代子 常磐会短期大学	数えることと図式と自然数	[数える]という操作の分析を通して、その図式を求め、その図式の表記としての自然数を考える。
	10	伊佐敷 隆弘 宮崎大学	「見かけの現在」について	クレイやジェームズが提唱した「見かけの現在」という概念についてその特徴と問題点を検討する。
19日 (土) B 会場	1	保田 道雄 立正大学・非常勤講師	中学入試算数への高等数学の浸透	特殊算数の数学化は、ひとつは高等数学の算数への仮面の浸透として、語りうる。
	2	岩沢宏和 東京都立大学大学院 人文科学研究科 博士課程	議論において是非を争う基本単位	議論における不一致の構造を解明するために、そもそも何の是非が議論において争われているのかを考察する。
	3	三石博行 千里金蘭大学 短期大学部	人工物プログラム科学の認識論	現象学的認識論を点検しながら、生活世界の科学として提案されてきた吉田民人の人工物プログラム科学の認識論を問題にする。
	4	水本正晴 東京都立大学 学術振興会	非単調性と自己認識論理	非単調論理として再構成した事実と情報の理論の拡張と、それに基づく自己認識論理の批判的考察。
	5	清水 哲男 東京大学医科学研究所・先端医療研究センター	論理的原子論再考	ラッセルの『論理的原子論』と、ライプニッツの『单子論』との関係を中心に、現代の原子論の意義を論じる。
	6	中山康雄 大阪大学大学院人間科学研究科	四次元主義と人格の同一性	人格の同一性の議論における人間分岐のパズルに対して、四次元メレオロジーの立場から解法を提案する。
	7	田之頭昭徳 宇宙航空研究開発機構	誘起場实在論から意識文明への道	デカルト的「非実感的自我自覚」を心的意識文明の背景基礎と捉え誘起場概念からの機能分化自由度を探る。
	8	斎藤 健 北海道大学大学院 文学研究科 博士後期課程	圏論的構造と数学の基礎づけ	圏論的構造は集合論的構造の一般化であり、圏論的観点をとると基礎づけより数学的言語の組織化が重要になる。
	9	難波 完爾 弘前大学 教育学部	佐藤sin ² 予想と超楕円曲線	楕円曲線 $y^2=x^3+ax+b$ と、超楕円曲線に関する佐藤sin ² 予想の歴史と拡張 $\sin^2(x)+\sin^2(2x)$ について述べる。
	10	斎藤 正彦 東京大学 数理科学研究科 名誉教授	原初的空間認識の形式化	原初社会での空間認識の構造を、数学基礎法の形式的理論の形に定式化する、線分、水平、垂直、直行、長さの長短などの概念はあるが、長さ、面積、角度などの概念はない。

2004年度年会講演者一覧

会場	番号	講演者 / 所属	演題	内容
20日 (日) A 会場	1	谷川 卓 千葉大学大学院 自然科学研究科 博士後期課程	“ネガティブな出来事”を含む因果文	反事実条件的分析の下で“ネガティブな出来事”を含む因果文はどのように説明されるのかを論じる。
	2	吉満 昭宏 名古屋大学	哲学的論理学における非正規世界	非正規世界概念を使った論理(様相論理と関連論理)を比較検討し、非正規世界とは何であるかを論じる。
	3	月本洋 東京電機大学工学部	身体運動意味論	最近の脳科学の知見に基づいた身体運動意味論を提示し、いくつかの意味論を統合できることを述べる。
	4	村上祐子 千葉大学非常勤講師	分割様相文脈内の代入可能性	可能世界の集合の分割上で定義される様相文脈は一般に代入可能ではない。当発表では、可能条件を示す。
	5	佐野勝彦・中山康雄 京都大学大学院 文学研究科 博士課程、大阪大学	非反射の様相をもつ二様相論理	正規一様相論理に非反射の様相を加えた二様相論理を提案し、完全性及び意味論の性質を明らかとする。
	6	武笠行雄 電気通信大学	フレーゲの文脈原則について(再論)	既にGrundlagenの文脈原則は理論構成の制約ではなく、予備学を導くと論じたが、これをGrundgesetzeで検討する。
	7	鈴木 聡 駒澤大学文学部 非常勤講師	古い証拠の問題とAGM理論	AGM理論を用いて、ベイズ主義の土台を揺るがす古い証拠の問題に関する従来の議論の欠点を克服する。
	8	山口まり子 上野学園大学 国際文化学部	フィクションと反実仮想	フィクションの理解のあり方と、反実仮想の理解のあり方は同じであるか否かを考察する。
	9	川口嘉奈子、柏端達也 千葉大学大学院、千葉大学	Stalnakerのループをめぐって	スタルネイカーが提起したあるパラドキシカルな状況について、認識論および形式意味論の視点から考察する。
20日 (日) B 会場	1	山口健太郎 京都大学大学院 文学研究科科学哲学科学史専修	E.ローレンツのカオス研究	最初にカオスと呼ばれる現象を発見したE.ローレンツの研究をたどることで、カオスの諸性質を明らかにする。
	2	佐藤俊治 北海道大学大学院理学研究科 研究生	ボア主義的な様相解釈の試み	量子力学の様相解釈の枠組へのボアの量子力学解釈の整合的埋め込みを模索し、新たな解釈の可能性を探る。
	3	佐藤 正典 本多電子株式会社	音波による相対論の考察	音は波動方程式に従い、形式的にローレンツ変換可能である。この意味を考察し、相対論が音に拡張可能かどうかを議論する。
	4	千代島 雅 東京都立科学技術大学	時刻と時間と私 - 流れの問題	時間の流れの問題について、時刻と時間を明確に区別しニュートンやアインシュタイン等も考慮に入れて考察。
	5	渋谷 仙吉 山形大学理工学部	対話的観測とフィードバック理論	フィードバックの入力端子を対象、出力端子を観測者とする、対話的観測が成立するか研究する。
	6	白井仁人 一関工業高等専門学校	量子力学の新しい統計解釈	本論文で量子力学の新しい統計解釈を提出する。それは不確定性を説明しベルの不等式の破れとも矛盾しない。
	7	深山洋平 北海道大学大学院	「集まり」の概念の2つの方向性	G. カントルとB. ボルツァーノに見られる「集まり」の諸概念が各々意味するものを解明・比較する。
	8	三好博之 京都産業大学 理学部コンピュータ科学科	計算と時間	計算概念の反省から得られた持続と記述の枠組みが物理学的な時間論とどのように関連するかについて検討する。
	9	奥 雅博 大阪大学 人間科学	「メタロジカル」とは何か	中期ウィトゲンシュタインの遺稿に散見する「メタロジカル」という表現の哲学的射程を考察する。